

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

水戸市

（地域における現状・課題）

本市の令和5年度6月時点での部活動の状況は、全16校において運動部、文化部合わせて約250部存在する。本市では令和3・4年度に双葉台中学校において国の運動部活動実証事業を行った。また、部活動地域移行のモデル実践としてスポーツ教室を開催し、参加生徒及び保護者に対するニーズの調査を行った。令和5年度は、地域移行コーディネータを配置し、モデル校（双葉台中学校）の活動をもとに、令和6年度以降の段階的な地域移行のための計画立案を行った。

（地域移行の推進に向けた体制整備の取組概要）

運営主体：双葉台中学校

活動場所：双葉台中学校

指導者：地域指導者、遠藤 米吉、川越 信行、小関 広一、鈴木 拓海
岡野 理人、秋好 和登、西村 奏輝

移動手段：徒歩、自転車

責任主体：水戸市教育委員会

活動種目：野球、ソフトボール、剣道、男女ソフトテニス、男子バスケットボール、卓球

会費等：0円（部活動のため）

保険：生徒：0円（スポーツ振興センター）

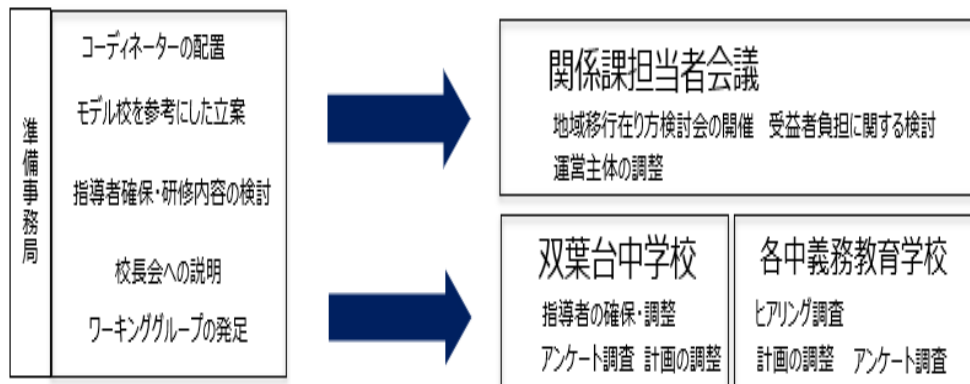
指導者：657円

（実践研究の成果）

令和5年度は水戸市教育委員会総合教育研究所にコーディネーターを配置し、令和6年度以降の段階的な地域移行に向けた準備期間とした。他の先行事例や各校の部員数調査等の情報収集を行い、関係各課の合意を図るために地域移行あり方検討会を3度開催した。

また、工夫したという点において、令和4年度末に終了した国の実証事業を市で独自に継続した。双葉台中学校に、積極的に部活動指導員を配置し、地域移行のための制度設計に係るデータの収集を行い、令和6年度における地域クラブモデル拠点の運営のための立案を行った。

（運営体制図）



- （1）運営類型：部活動指導員を活用した地域移行に向けた実証事業
- （2）運営主体：水戸市立双葉台中学校
- （3）種目：野球、ソフトボール、剣道、男子バスケットボール、男子ソフトテニス、女子ソフトテニス、卓球
- （4）指導者の主な属性：部活動指導員
- （5）1か月あたりの平均的な活動回数：4回/月
- （6）主な活動場所：双葉台中学校（グラウンド、体育館、武道場）
- （7）主な移動手段：徒歩、自転車
- （6）1人あたりの参加会費等（年額）：0円/年
- （7）1人あたりの保険料：生徒0円（※スポーツ振興センター）/指導者657円

※都道府県において、地域クラブ運営を実施していない場合には本項目は削除

【水戸市】

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 (運動部活動の地域移行に向けた実証事業)

本報告書は、スポーツ庁の「令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業（運動部活動の地域移行等に向けた実証事業）」の一環として、茨城県が実施した「令和5年度運動部活動の地域移行に向けた実証事業」の成果を取りまとめたものです。

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	26.82万人	部活動数（※特設部含む）	232部活
公立中・義務教育学校数	16校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置予定あり
公立中学校生徒数	6,190人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定予定あり

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市の令和5年度6月時点での部活動の状況は、全16校において運動部、文化部合わせて約200以上の部活動が存在する。本市では令和3・4年度に双葉台中学校において国の運動部活動実証事業を行った。また、モデル実践としてスポーツ教室を開催し、参加生徒及び保護者に対するニーズの調査を行った。双葉台中学校の実証事業をもとにした地域移行を市内全校に展開するための制度が確立していないことや、地域移行に関する本市の方針調整が図られていない。また、他市と比較し学校数が多いことや、学校間で生徒数の差が見られることから、それぞれの学校や地域の実態に応じた計画が必要である。

○ 本市における野球部の部員数（R5.7月末時点）

学校	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P
部員数	16	9	12	8	24	7	1	9	29	12	6	21	14	11	5	2

本市において、学校間の部員数の差が顕著に表れているのが野球であり、市内16校のうち、9校が合同チームを編成して活動している。

2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

● 教育委員会（教育研究課）

- | | | | |
|--------------------------|-----------|---------------|----------|
| ・地域移行実証事業運営事務局（コーディネーター） | ・関係団体との調整 | ・学校へのヒアリング調査 | ・運営主体の調整 |
| ・庁内あり方検討会の調整 | ・アンケート調査 | ・他の中核市の進捗状況調査 | ・指導者の募集 |

年間の事業スケジュール

令和5年度

- | | | |
|--|--|---------------------------------------|
| ○ 4月
・学校へのヒアリング調査（双葉台中学校） | ○ 7月
・第2回庁内地域移行あり方検討会の調整及び開催
・市内校長会説明用資料作成 | ○ 10月
・令和6年度事業計画作成
・学校へのヒアリング調査 |
| ○ 5月
・部活動指導員研修会
・第1回地域移行庁内あり方検討会の調整及び開催 | ○ 8月
・市内学校長会プレゼン | ○ 11月
・市内校長会用プレゼン作成 |
| ○ 6月
・中体連主催大会視察及びヒアリング調査
・アンケートの検討及び作成
・実証事業の調整及び運営 | ○ 9月
・令和6年度事業計画作成
・児童生徒保護者向けアンケート実施及び分析 | ○ 12月
・市内校長会対応 |
| | | ○ 1月
・第3回庁内地域移行あり方検討会 |
| | | ○ 2月
・学校へのヒアリング調査 |

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

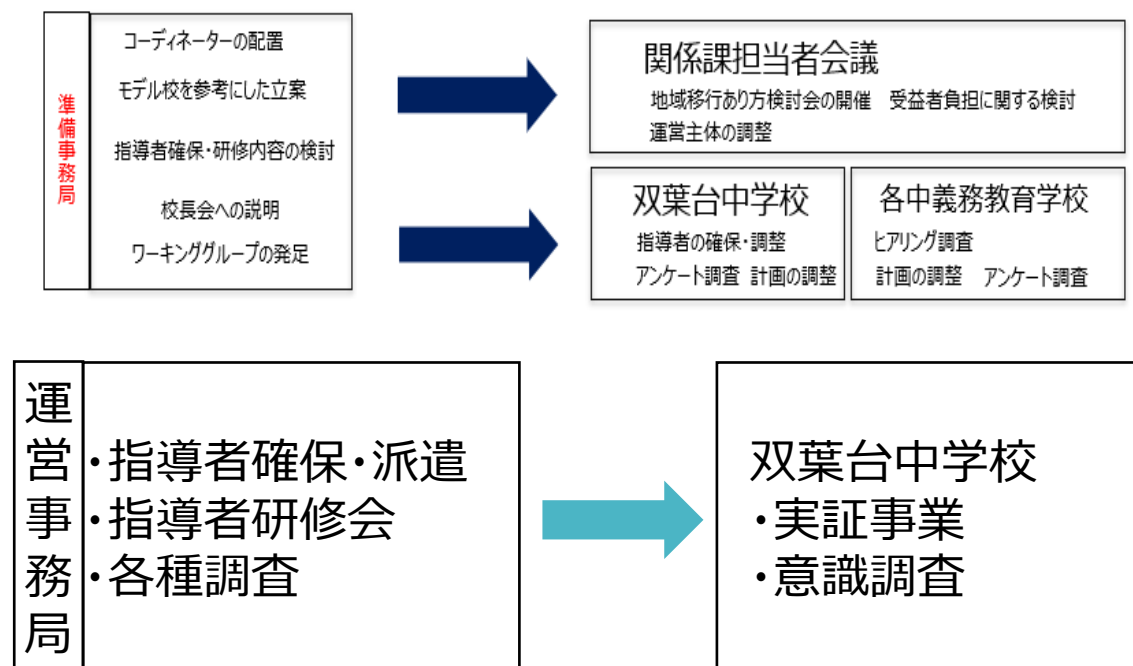
拠点校数	1校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	野球, ソフトボール, 剣道, 男子バスケットボール, 男子ソフトテニス, 女子ソフトテニス, 卓球
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	7部活		

主な取組例 ※注1

▼活動概要

拠点校名	双葉台中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	7部活
地域クラブ活動で実施した種目	野球, ソフトボール, 剣道, 男子バスケットボール, 男子ソフトとテニス, 女子ソフトテニス, 卓球
運営主体名	水戸市立双葉台中学校
運営類型 ※注2	※既存の部活動を活用
1か月あたりの平均的な活動回数	各部活動：月4回程度 (休日のどちらかで活動)
指導者の主な属性	部活動指導員
活動場所	双葉台中学校 (グラウンド, 体育館, 武道場)
主な移動手段	徒歩, 自転車
1人あたりの参加会費等 (年額) ※注3	0円
1人あたりの保険料	0円 (スポーツ振興センター適用)

▼運営体制図 (地域移行に係る実証事業運営体制図)



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

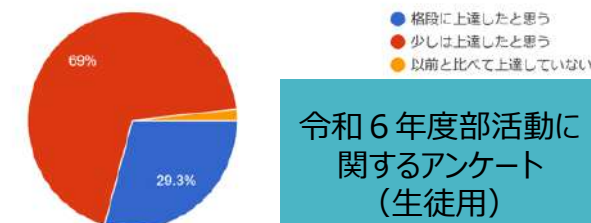
取組事項

- ・コーディネーターを活用し、方針決定のための庁内合意を図るためのあり方検討会を開催する。
- ・モデル校（双葉台中学校）において実証事業を行い、成果と課題を明確にする。
- ・令和6年度以降の休日の地域クラブ指導者を確保するため、部活動指導員を積極的に活用する。
- ・運営主体を決定する。

取組の成果

- ・令和3・4年度双葉台中学校における実証事業を市独自に継続するために、7部活動に部活動指導員を積極的に配置し、生徒や保護者に対するニーズや意識調査を行った。また、地域移行コーディネーターを中心に、令和5年度の実証事業やアンケート調査結果をふまえ、令和6年度における地域クラブ実証事業の計画立案を行った。

Q 生徒のみなさんに質問です。コーチの指導により上達を実感しましたか。

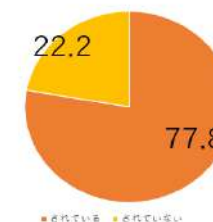


令和6年度部活動に関するアンケート
(生徒用)

特に工夫した事項

- ・部活動指導員については、前年度より登録していた方と新規の指導員を活用する事で、令和4年度の実証事業の5部活動より7部活動に配置をすることができた。
- ・指導員と顧問間で情報共有を図り、生徒の主体性を育んだことにより、指導員が中心となる休日も円滑に活動をすることができた。
- ・平日と休日の指導に関連性をもたせるため、部活動顧問と指導員の間で連携を密にすることで一貫性をもたせることができた。指導員が単独で指導にあたることにより部活動顧問の負担軽減に繋がった。

教員が指導すること（練習メニューを考えることや技術的指導など）に対する負担感は軽減されていますか。



令和6年度部活動に関するアンケート
(教師用)

今後の課題と対応方針

- ・地域クラブの運営に伴う指導者の確保については部活動指導員の活用が有効であり、顧問との連携を図ることで平日と休日の活動に一貫性をもたせることができた。
- ・7つの部活動を対象に実証を行ったことにより、地域に活動を移行しやすい種目や条件を把握することができた。
- ・地域移行に関して、教育委員会内の担当課のみでは円滑に進めることができなかった。令和6年度については、庁内合意や推進協議会における方針決定を行うとともに、令和7年度に向けた制度設計を行う。

2. 実証内容と成果

参考資料 (活動写真)



【指導員による野球部の指導の様子】



【指導員による野球部の指導の様子】



【指導員による中体連主催大会の引率の様子】



【指導員による中体連主催大会の引率の様子】

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

4 【Q3で「はい」と答えた人に質問です。】あなたが加入している部活動名をおしえてください。

部活動名	加入数	部活動名	加入数	部活動名	加入数
陸上競技	174	剣道	129	生物	0
水泳	63	柔道	34	美術	172
体操・新体操	11	卓球	295	演劇	0
バレーボール	240	ソフトボール	75	合唱	16
バスケットボール	263	弓道	32	英会話	16
サッカー	171	レスリング	6	手芸	13
ソフトテニス	333	吹奏楽	203	その他	17
軟式野球	133	パソコン	42	合計	2,438人

5 【Q3で「はい」と答えた人に質問です。】休日の部活動が地域の方々が支える活動となった場合、さまざまな選択ができるようになります。あなたはどのような活動を行いたいと思いますか。

質問	回答
地域活動において平日と同じ種目を選び、より技術を高めたい。	1,024
地域の活動において平日と同じ種目を選ぶが楽しい活動をしたい。	982
地域の活動において平日と同じ種目は選ばず違う種目を行いたい。	100
部活動や地域活動ではなくクラブチームに加入したい。	89
休日は部活動も地域の活動にも参加しない。	212
合計	2,407

地域移行アンケート（生徒用）の回答 R5.9実施 回答：2,592人

2 あなたのお子様は休日の地域活動等に参加することを希望した場合、どう思いますか。

参加させたい	1,574
どちらかといえば参加させたい	1,518
どちらかといえば参加させたくない	328
参加させたくない	132
合計	3,552

3 休日の部活動を地域移行した場合、あなたは何を期待しますか。（複数回答可）

お子様が専門的な指導が受けられること	2,260
お子様の新たな人間関係・交流の場となること	2,245
教師の負担が軽減すること	1,349
お子様が地域の大人とつながりがもてること	712
お子様が新しい種目に挑戦できること	639
回答合計人数	3,552

地域移行アンケート（保護者用）の回答 R5.9実施 回答：3,552人

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

3 休日の部活動を地域移行した場合、あなたは何を期待しますか。（複数回答可）

お子様が専門的な指導が受けられること	2,260
お子様の新たな人間関係・交流の場となること	2,245
教師の負担が軽減すること	1,349
お子様が地域の大人とつながりがもてること	712
お子様が新しい種目に挑戦できること	639
回答合計人数	3,552

4 （※Q2で「運動部」または「文化部」と答えた人のみ）

あなたは部活動についてどのように感じていますか。

やりがいを感じている	58
どちらかといえばやりがいを感じている	60
どちらかといえば負担を感じている	76
負担を感じている	77
特に何も感じない	7
合計	278

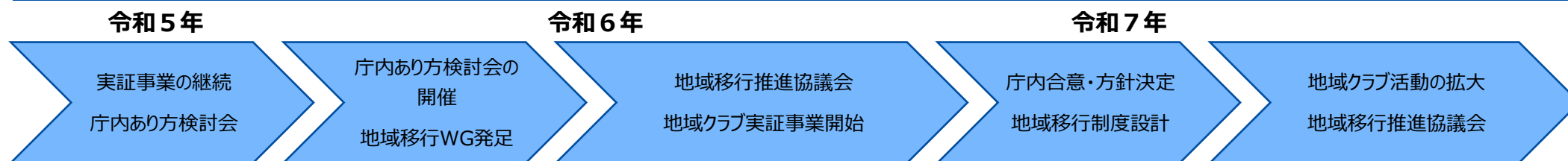
地域移行アンケート（教師用）の回答 R5.9実施 回答：588人

図、グラフ、文章での説明等

【キャプション】

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



○運営主体：双葉台中学校
 ○責任付帯：水戸市教育委員会
 ○実施内容、工夫した点 等
 令和3・4年度双葉台中学校における国の実証事業を行った。市独自に実証事業を継続させるために、対象となる部活動のほかにも部活動指導員を積極的に配置した。令和5年度の実証事業をもとに、令和6年度における事業計画及び予算要求を行った。予算額に応じた次年度の地域クラブ実証事業の計画を立案するとともに、市内学校長会で説明を行った。

○地域移行推進協議会
 （5・6月開催予定）
 ○地域クラブ実証事業開始
 （7月）
 ○地域クラブ運営における課題の洗い出しと対策の検討
 ○地域移行推進協議会
 （10月）
 地域移行推進計画・指導者資格の決定
 ○令和7年度に向けた制度設計及び予算・人員要求

 令和5年度双葉台中学校単独による実証事業の対象を拡大し、市内4校4部活動において地域クラブ実証事業を展開する。

※令和6年度中に地域クラブ実証事業の結果をもとに制度設計を行う。
 地域移行の対象規模に応じて、運営業務委託先の調整、指導者確保の調整等を行う

…枠・図等は適宜追加

3. 今後の方向性（地域クラブ移行案）

地域連携・地域移行の推進に向けた今後の計画（案）

水戸市部活動改革スケジュール（案）

年度	令和3・4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	<p>地域運動部活動 実証事業 (国)</p>		<p>地域運動部活動 実証事業 (市)</p>	
				<p>地域クラブ 実証事業 (市)</p>
水戸市	<p>R3：サッカー，男子ソフトテニス， 剣道，バスケットボール，男子卓球</p>	<p>R5：野球，ソフトボール，男子ソフトテニス， 女子ソフトテニス，剣道，バスケットボール， 男子卓球</p>	<p>R6：部活動指導員37名 配置 運動部：32名 文化部：5名</p>	<p>R7：部活動指導員配置 運動部：〇名 文化部：〇名 R6年度の実績を上回る数を 設置</p>
	<p>R4：男子ソフトテニス，女子ソフトテニス， 剣道，バスケットボール，男子卓球</p>		<p>R6：地域クラブ実証事業 市内2拠点（4部活動）</p>	<p>R7：地域クラブ実証事業 ※R6の実績を基に規模を検討</p>
	<p>休日の部活動を地域指導員に移行</p>		<p>休日の部活動を地域クラブ化を推進</p>	